

畜産ニュース

◎優秀な岡山物 大阪鶏卵品質改善荷造り共励会

鶏卵日本一を決める日本卵業協会主催、鶏卵品質荷造り改善共励会は11月8日大阪市中央卸売市場の大阪鶏卵で開かれ、本県からは美作鶏卵出荷組合、県経済連、県養鶏連が参加した。卵質、清潔度、重さ、箱、マークなどの各点から審査され、11月末農林大臣賞受賞者が発表される。ことしは従来の木箱1本から段ボール箱の進出が目立ち各産地とも選卵が非常によくなった。審査委員長の農林省兵庫種畜牧場伊藤場長の審査評つぎのとおり。

段ボールは長距離輸送に向かぬ欠点はあるが、木箱詰より手数がはぶけ、小売商や消費者間での人気もだんだんよくなっている。岡山香川場とも今回の出品物は品質がよく甲乙がつけにくい、モミガラが少いため割れたり、一部に汚卵がまじっていたが、品質向上への熱意が感じられた、卵の生命は新鮮度が第一で養鶏法と集卵を合理的にやるのがこんごの課題だ。

◎惣津畜産課長乳牛種牡 2頭と共に帰岡

はるばるアメリカから岡山県が購入した乳牛の種牡牛2頭(価格878万円)が18日朝岡山駅に着いた。牛は知事と初対面ののち津山市大田の県酪農試験場へ送られた。

ホルスタイン種々牡牛はアイオワ州デモイン市のギルス・ブラザー牧場のもので1952年生れの5才、昨年の全米種牛共進会で2位入賞、価格は14,000ドル(504万円)

ジャージー種牡はカリフォルニア州、マーセット市のサンシャイン牧場の産で生後10ヶ月、1年間飼育して交配させる。価格は1,200ドル(432,000円)

サンフランシスコを出発してちょうど1ヶ月ぶり、普通牛の2倍もあるこの全米2位、日本一を誇る“ホルスタイン君”は長途の旅にさすがに疲労気味、反対に元気なのは生後10ヶ月の“ジャージー君”貨車から引き出されるとピョンピョンはね回っていた。

ホルスタイン種は米国渡りで504万円、これに諸雑費や輸送費などを含めると700万円を越すという。しかしながら日本一を誇るだけあって、いまから農林省や酪農振興を目指している各県から精液の注文が舞

い込んでいる。今後大いに県内乳牛の品位向上に寄与するものと期待される。

◎農林新5ヶ年計画 畜産に重点をおく、所得25%増見込む

農林省は33年度から始まる経済新5ヶ年計画の農林水産部門について検討していたが、最終案をまとめた経済企画庁に提出、総合調整に入った。同計画は今夏決めた新農林政策に基いて作られたもので、その基本は畜産振興に置かれており、牛乳、豚肉、鶏卵など畜産物の大増産を計画している。計画の最終年次である37年度の農畜蚕平均の生産指数上昇率を21.5%(31年度基準)と推定、37年度には農村人口が約5%減少し所得が25%余増加するとみている。37年度の計画は次の通り。

▽食糧構成、1人1日当り消費量は米は297gで基準年の31年度と同量だが、精麦、雑穀は減少、これに代わってくだもの、豚肉、牛乳、鶏卵、魚、油脂類の増加を目指し、カロリーをでん粉からでなく蛋白、脂肪からより多くとる。

▽主要農産物の生産計画

米は約600万石の増産で人口をまかなう程度にとどまる。大、はだか麦の生産もふえるが、飼用がふえ、食糧用は約87万石減少する。

▽畜産増産計画

乳用牛124万3,000頭、豚225万7,000頭、馬64万1,000頭、めん羊190万7,000頭、鶏6,919万8,000頭でこれにより畜産物は牛乳が650万石から1,435万石へと120%、鶏卵は66億3,800万個から105億1,800万個へと58%、肉は30万4,700トンから38万7500トンへと28%それぞれ増加を見込む。

▽生産指数

以上により生産指数は耕種が14.6%、畜産が63%、養蚕が22.2%それぞれ増加、平均では21.5%増加し年平均成長率は3.3%と想定する。また林業の生産指数は8.2%、水産は18.5%増加、うち特に水産では、養殖が53.3%と大きく増加すると想定する。以上によって農林水産業の所得は19.4%増加するが、37年度には農村人口が都市の第2次、第3次産業に吸収されて4.9%減少すると推定され、農村1人当りの所得は25.6%増加しよう。

岡山畜産便り1957.11・12

◎学校給食に生牛乳、1月から10万石 農林省全国へ要綱示す

農林省では、だぶついている牛乳30万石を学校給食に回し、1合につき4円を国から補助することになったが、まず来年1月から3月までの10万石を学校へ回すのについて、各都道府県知事へ学校給食牛乳供給事業実施要綱を通告した。

農林省としては、12月10日までに各都道府県から助成計画をまとめたうえ、同月15日までに各都道へ国としての決定的な助成計画を示すことになっているが、実現までには相当問題が残っているようだ。

同省としては市乳の販売業者が、そのまま飲めるようにして学校へ持込み、また共販農場で生乳を殺菌処理して持込む最終的な価格を1合6円でおさえ、うち4円を国で補助、学童の負担は2円ですむようにしたい計画だ、しかし各都道府県によって、主乳生産量と給食へ回せる量、また処理施設状況、地元業者の熱意などが違い、必ずしも10万石給食が簡単にできると楽観していない。

各府県によってそれぞれ状況が違うので牛乳のだぶつきのひどい県においては6円より安く学校へ届けられることにもなろうし、さもない府県では生乳が集るかどうかが問題となり従って6円という線はくずれる事になるかと思われる。いずれにしても、農林省では、当初の計画通り10万石給食はなんとかして全国的に歩調を食わせて実現できるようにしたいといっている。

当県においても県畜産課、県教委、県衛生部でこの程話し合った結果、乳価を学校渡し1合6円50銭に決め配給することになった。このため15日県畜連で県下の牛乳処理業者約60人に対し6円50銭以下の価格でいくら供給できるかを4、5日中に提出してもらうことになった。